

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月19日

【評価実施概要】

事業所番号	3070103399
法人名	株式会社はるす
事業所名	グループホームはるすのお家・和歌山
所在地	和歌山県和歌山市福島486-1 (電話) 073-480-5670

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成21年2月6日	評価確定日	平成21年2月19日

【情報提供票より】(21年1月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	27 人	常勤	10人, 非常勤 17人, 常勤換算 12.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2ユニットは2階建ての1~2階部分、1ユニットは1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 900円			

(4) 利用者の概要(1月13日現在)

利用者人数	26 名	男性	9 名	女性	17 名
要介護1	5 名	要介護2	10 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.8 歳	最低	55 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	サンクリニック、下間クリニック、寺下病院、阪本歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

紀ノ川南岸の住宅街の中にあり、周辺の住宅とも溶け込み建物も施設という印象がなく、職員は私服で家庭と同様な雰囲気の中で利用者により寄り添った生活を送っている。職員は比較的若くてホームの雰囲気にも活気が感じられる一方、起床や食事、入浴など利用者の意向やペースを大切にしながら取り組みを行っている。2か月に一回程度の観劇などで利用者の興味を誘い、生活に張り合いをもたせている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の指摘事項は運営推進会議等でメンバーから意見を出してもらい、改善の検討を行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、ユニットごとに職員間のミーティングで意見を出し合い、管理者が取りまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの現況や行事を報告し、後期高齢者の検診や外部評価の結果、虐待防止、感染症への対応、改正消防法等を議題とし、メンバーから意見・要望を出してもらい、また家族からは不満や要望を聞いて改善に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議や面会時、行事に参加したときなどに、家族から意見・要望・苦情を聞き、要因分析を行い再発防止に取り組んでいる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会に加入しているが、地域活動に参加したり、地域の人々と交流しているとはいえない。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	それぞれのユニットにおいて独自の理念を作成している。理念の中に地域との関連について触れていないユニットがある。	○	ユニット間での職員の異動もあり、事業所全体として地域密着型のサービスの理念を含め、統一することが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をそれぞれのユニットにおいて、職員の目につく壁面に貼り、毎月のミーティングの時などに話しており、職員は日々の業務の中で活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入しているが、地域の活動に参加したり、地域の人々と交流しているとはいえない。	○	地域にホームを理解してもらうためにも、地域の人々との交流に努めるよう期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、ユニット毎に職員間のミーティングで意見を出し合い、管理者がとりまとめている。前回の外部評価の指摘事項は運営推進会議等でメンバーから意見を出してもらい、改善の検討を行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は6か月に一度開催しており、ホームの現況や行事を報告し、後期高齢者の検診、外部評価の結果、虐待防止、感染症への対応、改正消防法等を議題とし、メンバーから意見や要望を出してもらい、また出席した利用者家族には日ごろの不満や要望を聞いてユニットの会議で話し合い改善に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の担当者とは連携を密にしており、家族からの相談や運営推進会議に関することを相談し、サービスの向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者のホームでのくらしぶりや健康状態は家族の来訪時に報告している。また家族には毎月ユニットごとに新聞を発行し、行事や利用者の写真を掲載して家族に送り利用者の暮らしぶりを伝えている。また金銭管理についても支出や残額を記載した金銭出納帳と領収書・レシートを送り家族に報告している。なお利用者の健康状態等に異常が見られた場合はその都度電話等で連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時、行事に参加したときなどに家族から意見・要望・苦情を聞き、出された苦情等は苦情(相談)対応記録に記載し要因分析を行い、再び起こすことがないよう運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にするよう努めているが、退職する人があり新しい職員を採用している。離職や移動があったときは、利用者には新職員を紹介するとともに、新しく入ってきた職員には業務の中で利用者に関する引継ぎを行い、利用者には混乱が生じないように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や中堅職員は外部の研修会に参加している。また県グループホーム連絡会の研修会への案内を職員に知らせているが、業務の都合等もあり、余り参加できていない。	○	業務の都合もあると考えられるが、職員のサービスの実践力を高めるため、出来るだけ研修に参加することを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会に加入しており、研修会等への参加を通じ同業者と交流している。またグループホーム間の相互実習も行っており、他のグループホームの業務を体験しサービスの向上の参考としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を希望する本人・家族にホームの見学に来てもらい、十分話し合い納得の上で入居してもらっている。なお入居するときは、家族に本人のなじみの家具を持ってきてもらい、自分の部屋があるのだと認識してもらうようにしている。また入居後、家族には十分連絡をとり相談を重ね、徐々に職員や他の利用者、場の雰囲気に馴染んでもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は家庭的な雰囲気を壊さないようユニホームでなく普段着を着て、利用者と生活を共にして本人に寄り添うようにして支援し、信頼関係を築くようにしている。また一緒に生活する中で利用者の過去の経験談を聞いたり、調理方法などで教えられることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	起床や入浴、食事の時間などは本人に相談し、できるだけ希望に沿えるようにしている。希望などの把握が困難なときは、家族に聞いたり、利用者の情報を記載したシートを見て検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がよりよく暮らすためにケアや課題について、本人・家族の意向を踏まえてミーティングで職員とも話し合い、介護計画を作成し保護者の同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月に一度、日誌の記録や申し送りノート、ミーティング等の内容により見直すとともに、利用者の健康状態等に変化が見られたときはその都度見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護ステーションと医療連携の契約を結んでおり、週一回利用者に対し看護師により健康管理が行われるとともに、24時間連絡可能な体制がとられている。また観劇等の外出支援や、緊急時、保護者が遠方の場合などに医療機関への移送サービスを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望により大部分の利用者は週一回協力医療機関の訪問診療を受けている。希望により従来のかかりつけ医を希望する場合は家族が付添って診療を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期どうするかについて、家族と主治医、訪問看護師が話し合い、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを傷つける言動があれば、管理者がその都度注意指導している。個人情報についても適切に保管し、取り扱われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の日々の業務のペースになりがちであるが、管理者が指導し、可能な限り利用者の希望に沿えるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しく食べられるように、食事のメニューを利用者と一緒に考えたりして調理に反映させている。なお一部の利用者は、職員と一緒に果物の皮むきや食事前の配膳、後片づけを手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴出来るようにしており、時間について毎日一人ひとりの希望を聞いてそれに沿えるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者にはその人の力や個性により、食事の準備や後片づけ、掃除、洗濯物干し、野菜や花づくり、買い物などの役割をしてもらっている。また塗り絵、編物などの趣味や、2ヶ月に一度の観劇に参加したりして楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員が付添って近辺へ散歩したり、海岸などへドライブに行くことがある。また2日に一度の食材の買物の外出にも利用者が同行している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットの玄関は夜間以外は鍵をかけていない。居室にも鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2度避難訓練を行っており、ベルを鳴らすと利用者が混乱するので、外出時を利用して門のところに集合してもらい、避難訓練をしている。地域の人々へ災害時の協力の働きかけは行われていない。	○	周辺の人々や地域の役員に災害時の協力の声かけを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>1日30品目の食材の摂取を目標にメニューを作成し栄養のバランスをとるようにしている。小食な人や栄養補給が必要な人は食事量を記録し、職員が把握するようにしている。水分の摂取は食事以外に午前と、午後のお茶の時間、夜間は希望者にペットボトルに入れたお茶を用意している。なお訪問看護師が血液検査により栄養状態を把握し指導を受けている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室の壁面には利用者が書いた塗り絵や書、毎月のためより(写真)、芝居のポスターなどを貼り、利用者にとって親しみやすく配慮しており、またくつろぐ事の出来る和室が用意されている。音の高さや明るさも適当と感じられた。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、家族が用意したベッドや布団、使い慣れた家具、テレビなどや趣味のものが置かれ、居心地よく過ごせるように配慮されている。</p>		